

令和6年度第1回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和6年9月3日（火）14:00～15:30

場 所

岡崎市東庁舎2階大会議室

出席委員

名古屋都市センター長

奥野 信宏 会長

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長

大竹 博久 委員

早稲田大学 教授

小野田 弘士 委員

岡崎市医師会 会長

山本 潤 委員

岡崎市総代会連絡協議会 会長

長坂 秀志 委員

東京大学 教授

村山 顕人 委員

岡崎信用金庫 地域振興部 部長

八木 則行 委員

欠席委員

名古屋大学 名誉教授

福和 伸夫 副会長

岡崎商工会議所 会頭

大林 市郎 委員

東京大学 教授

小川 光 委員

連合愛知三河中地域協議会 副代表

山口 賢二 委員

岡崎市教育委員

千野 智子 委員

事務局

総合政策部 部長

岡田 晃典

総合政策部企画課 課長

富田 浩也

総合政策部企画課 副課長

板坂 英幸

総合政策部企画課 係長

中村 衣里

総合政策部企画課 主査

武藤 康弘

傍聴者

0名

会議要旨

議題1「第7次岡崎市総合計画中間見直し及び次期総合戦略策定について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 地域全体で人口減少が進む中で、この街に住んでいきたいと思ってもらうためには安心安全なまちづくりが重要になると思うので、市民意識調査では安心安全の観点や高齢者対策に関する意見を聴いてもらいたい。
- 総合計画の内容は抽象的であり、具体的なイメージが湧かないと思われる。市民に対してもう少し分かりやすさを考慮したほうがいいのではないか。
- 高齢化や2025年問題、2040年問題など課題が多く、今後は人口構造の変化も見込まれるため、人口ピラミッドを考慮した計画策定を進めてもらいたい。
- 高齢者、特に要介護対象者や認知症が増えていく中で、防災を含め安心安全なまちづくりが重要になる。市民意識調査では具体的にランドデザインに結びつくわかりやすい設問に留意してもらいたい。
- 環境・エネルギー分野について、カーボンニュートラルなど社会情勢の動きがあるが、供給する事業者側の目線ではなく、市民目線に立ち電気料金など日常生活に影響する部分を考慮すべきだと思う。第6次環境基本計画だと環境保全を通じた Well-being や、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー、生物多様性やネイチャーポジティブが柱となって進めていく方針となっており、参照されたい。
- 高齢化が進み、地域では暮らしの足となるラストワンマイルが今後課題になると思われる。ラストワンマイルの取組が進まない地域は疲弊していくため、市民目線に立ち課題解決に向けて取り組んでももらいたい。
- 交通分野では、自動運転やドローン物流については社会実装するために通信インフラなどの環境整備について考慮する必要がある
- 岡崎市は様々な分野で環境に恵まれている一方で、総花的になってしまう部分がある。岡崎市は住みやすい地域であると考えられるため、子育てしやすい、住みやすい環境の実現に向けて施策を展開してもらいたい。
- 地域には行政の他にも地域課題の解決に取り組んでいる民間企業やNPOなど多様な担い手があるので、産官学民で連携して効果的な取組を推進する必要がある。
- 資料には社会情勢の変化や国の戦略・方向性は整理されているが、岡崎市らしさがまだ整理されていない。今後、具体的なデータに基づいて岡崎市の現状を分析し、計画に反映してもらいたい。
- 人口減少が進む中で、その過程をどう乗り越えるかが重要になる。将来的に人口が今の6割に減少しても、どの地域でも豊かに暮らせる準備が重要である。
- 中部圏の自治体では、リニア中央新幹線開通による影響を考慮した計画はまだ策定されていないと思う。岡崎市は立地がよく、恵まれている地域で、期待も大きいので、リニア中央新幹線開通を考慮して更に発展できるよう努めてもらいたい。

議題2「第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の事後評価について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 全体的に進捗状況は順調な一方で、未達成の事業が悪目立ちしている。KPIの難易度も事業で異なっており、難易度によって評価が左右されるため、今後KPI設定の際には難易度も考慮してもらいたい。
- 目標が未達成である「新たな交通システム導入」について、地域によっては公共交通がない地域もあり、地域ごとに課題が異なると考えられる。今後はどのような展開を予定しているのか。

（事務局回答）

公共交通機関が運行している路線バスではなく、地域住民が主体で取り組み、暮らしの足となるラストワンマイルの部分を「新たな交通システム」として導入を推進している。地域によっては公共交通に近いデマンドバス運行やボランティア運行など、地域特性に応じて導入する交通システムを変えており、各地域で色々なパターンを実施している。今後は各地域と一緒に地域交通のあり方を考え、地域に愛されて使ってもらえる交通システムを考えていきたい。

以上